

浜松市出身の映画監督木下恵介（1912～1998年）を顕彰する「木下恵介記念館」（同市中央区）で、企画運営を務めるキュレーター戴周杰さん（31）が3月末で退館し、浜松の地を離れる。中国出身の戴さんは、木下作品に魅了され来日を志し、縁が重なり、敬愛する監督の記念館が初任地となった。5年間暮らした浜松や、監督への思いを聞いた。

（武部元也）



記念館勤務 中国出身 戴周杰さん

■ちびまる子ちゃん
 幼少の1990年代、テレビで日本のアニメをよく見ました。東京や大阪より先に「ちびまる子ちゃん」で静岡を知りました。ジャッキー・チェンなどの香港映画が大好きでした。難関の北京電影学院に現役合格でき、広告映像を専攻しました。

■ザ・日本
 日本映画は大学の授業で初めて見ました。それが木下監督の「梅山節考」でした。ザ・日本の感じ、こんな映画を作るなんて、日本ってすごいと感銘を受け、来日の契機になりました。東京芸術大大学院への国費留学は最初の世代です。

■魚香肉片
 2015年夏、電影学院卒業の2日後、スーツケース一つで来日しました。東京は、めっちゃ大都会で、良くも悪くも変な人がいっぱい。日中文化についての短編映画「魚香肉片」を制作し、19年に日本の映画祭で入賞しました。ネットで検索すれば見られます。

■コロナ禍で
 日本で就職までは考えず、英国で博士課程に進む予定でしたが、コロナ禍で渡英どころか母国へも帰れなくなり、日本に残り就活。映像作家志望でしたが、日本で学ぶ間に、映像文化全般の交流に携わりたいと考えました。ネットで調べ、記念館に応募。来日のきっかけを生んでくれた監督の関係施設に就職できるとは、縁を感じます。

■救われた
 記念館では、月1回の上映会や、特集展示の企画を務めました。就職して間も

なく、出身について差別的な言葉を受け「ここに意義は」と悩みました。何人かのお客さんが「上映会、楽しみにしているよ」と励ましてくれて、おかげで続けられました。

■繊細さ、大胆さ
 木下監督の魅力は、弱い立場の人々を支えるまなざし。私も一生大事にしたい。LGBTQ（性的少数者）への意識の先駆けでもありました。一方、バランス感覚にたけ、数々のヒット作を手掛けました。制作手法に大胆さもあり、さまざまテーマに挑みました。

木下恵介記念館 浜松市中央区栄町。月曜（祝日なら翌日）と年末年始休館。午前9～午後5、観覧料100円、70歳以上と高校生以下無料。原則各月第3日曜の午前10、午後2上映会。

浜松餃子 大好きです

浜松餃子、大好きです。具材に肉が多すぎると重くなりますが、野菜が多めでフレッシュな感じ。大学近くの店で仲間と食べました。本場の中国は水餃子が多いし、餃子は主食。来日して、餃子でご飯を食べるのはびっくり。ラーメンライスも驚きました。

■ネット世代に

年配の方と比べ、若い世代は木下作品に通じていない、との声を聞きます。うちの問題ではなく、若者の興味はネットの短い映像に移りがち。でも魅力を伝える限り、記念館に誰にも来なくなってしまう。映画関係の施設は、思ったより少なく、貴重な存在です。

■映画監督の夢
 監督への夢は持ち続けています。さまざまな人との出会いがあった浜松での5年間は、いつか映画にしたかった。木下監督へのリスペクト作品も夢です。映画化が本「戦場の固き約束」が残されています。最終作はをよろしくお願いします。

■来月から青森へ
 4月から青森県内の大学で助教に就き、映画制作などを教えます。浜松は自然豊かでも優しく、東京と比べ人の距離は近い。情熱を持った人が多いです。上映会では誕生日ケーキを持ってきてくれた人もいて、家族のような気持ちになりました。ありがたうござい

ずでした。自身の中国での戦場体験が基のヒューマンドラマで、私の母国、中国への思いが詰まっています。もしも映画化が実現すれば、時空を超えて、木下監督と対話ができるかもしれません。

木下作品、これからの人へ 戴さんお薦めの5本

二十四の瞳 (1954年)	戦争の残酷さを真正面からではなく、側面から見せる得意の演出
梅山節考 (58年)	歌舞伎や浄瑠璃の様式。すべてセット撮影で舞台的。監督ならではの世界観
花咲く港 (43年)	デビュー作。浜松の中田島砂丘でもロケ撮影。シンプルだが、うまい作品
野菊の如き君なりき (55年)	封建制度に苦しめられた人々の思いを遺憾なく見せる
カルメン 故郷に帰る (51年)	日本初のカラー劇映画。戦後の風潮を風刺。女性同士の関係も描く。笑って泣ける

浜松 木下恵介監督の縁



戴周杰さんと、木下恵介監督の展示写真＝浜松市中央区栄町の木下恵介記念館で

木下恵介 浜松市生まれ。実家は同市伝馬町の食料品店。1925年浜松工業学校（現県立浜松工業高校）入学。33年松竹蒲田撮影所入社。40年軍召集、中国出兵。41年負傷除隊し帰国。43年に30歳で映画監督デビュー。45年夏、浜松大空襲を体験、実家全焼。代表作は「二十四の瞳」「喜びも悲しみも幾歳月」など。監督作品は全49作。テレビドラマも多く手掛けた。享年86。

戴周杰 1993年中国湖南省岳陽市生まれ。国立の映画専門大学、北京電影学院の広告監督専攻卒業。2015年来日、東京芸大の大学院留学。20年木下恵介記念館・浜松市鴨江アートセンター就職。静岡文化芸術大の大学院で学ぶ。

「梅山節考」感銘受け来日、初任地は名匠の古里